

テーマ 外来種を調べよう

今回のテーマは「外来種を調べよう」です！

外来種とは、もともと日本にはいなかった、他の地域から入ってきた生物のことをいいます。

先生のお話では、千波湖にも外来種がすんでいるそうです。今日は、千波湖にすむ外来種をわなで捕獲し、どんな種類の外来魚が生息しているか調べてみましょう！



みんな真剣に先生の話をかいています

昨日しかけたわなは、かごわなとはえ縄です。まずはかごわなから見ていきましょう。

かごわなを千波湖から一つずつ引き上げていきます。引き上げるたびに「モクズガニだ！」「テナガエビだ！」と子どもたちが歓声をあげます。

今回は、モクズガニやテナガエビのほかに、なんと、外来種のブルーギルがかかりました！以前は、千波湖にブルーギルが多く生息していましたが、外来種であるアメリカナマズがブルーギルを食べるようになり、ブルーギルの数がかなり減ったそうです。



何がかかっているかな？



外来種のブルーギル



モクズガニ

次は、はえ縄です！しかけたはえ縄が揺れています。一体何がかかったのでしょうか？

わなにかかった魚たちが黄色いボートで運ばれてきました。子どもたちは大興奮です！

今回はなんと、外来種のアメリカナマズが2匹もかかりました！アメリカナマズは正式名をチャネルキャットフィッシュといいます。アメリカナマズは、1980年代に、霞ヶ浦で食用に養殖されたものが逃げ出し、広がったと言われています。



たくさんかかったね！



大きなアメリカナマズですね！

今日の学習会では、千波湖にすんでいる生き物を実際に観察することができ、子どもたちにとって、大変貴重な体験となりました。